

巻 末 資 料

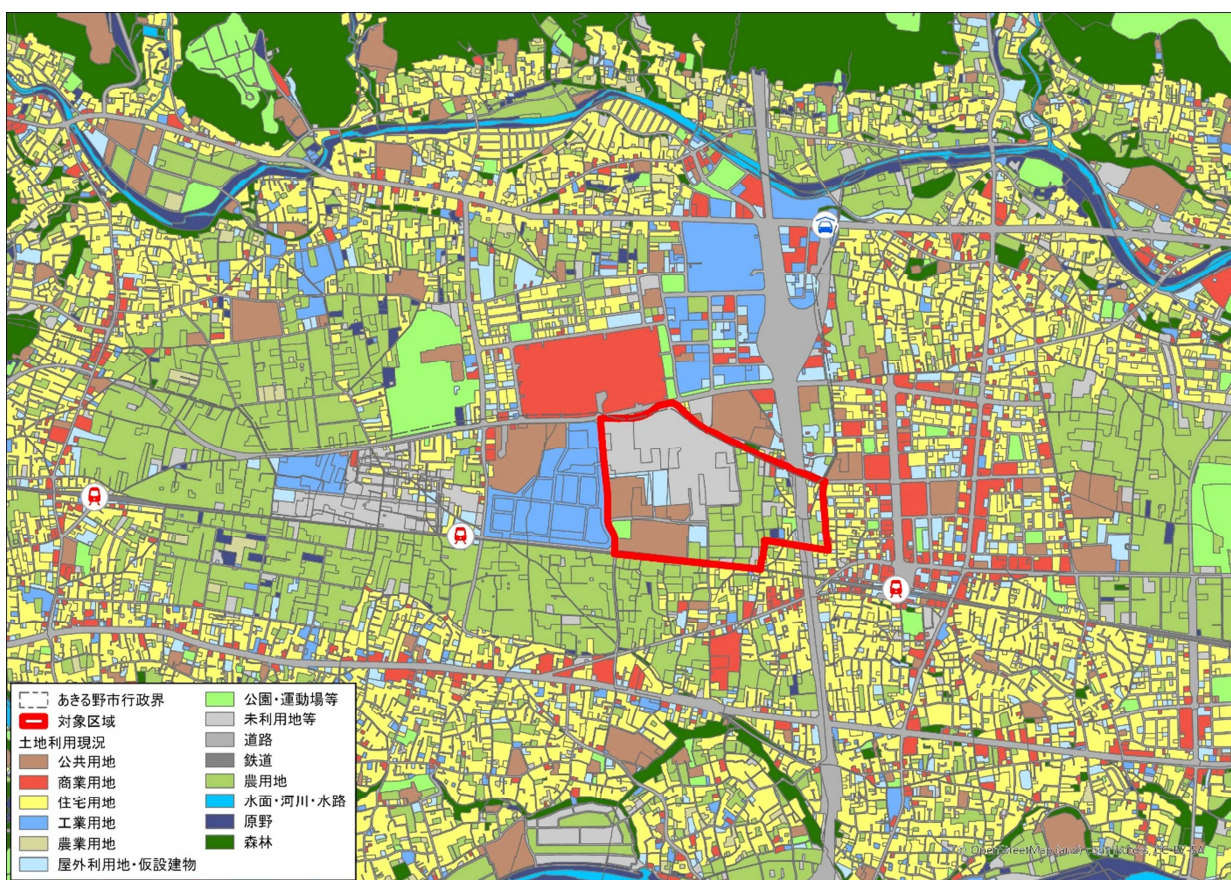
参考資料① 秋川高校跡地及び周辺地区に関する分析

(1)土地利用現況

周辺の土地利用は秋川高校跡地が広大な未利用地となっており、豊原・道場地区(高校と圏央道の間)には農用地が広がる。また、圏央道沿道周辺には住宅用地が混在している。

【課題】高速道路 IC や鉄道駅が至近であり、市街地に隣接した広大な未利用地の存在は稀有であることから有効活用が課題である。

秋川高校跡地及び周辺地区の土地利用現況(令和4年都市計画基礎調査)



参考資料② あきる野市の地域経済循環率に関する分析

(1)あきる野市の産業構造について

【産業構造】 ※総計、都市マスより

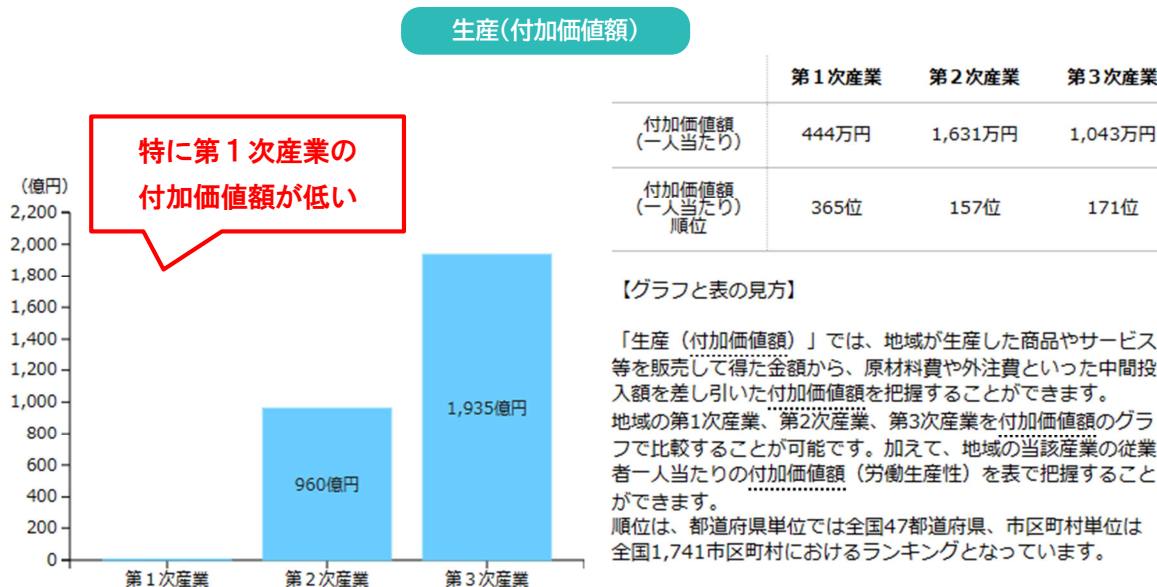
- ・あきる野市の産業別就業人口は、第1次産業及び第2次産業は減少、第3次産業は横ばい。類似団体等と比べ、第1次産業は高い傾向にある。事業所数では、卸売業及び小売業の占める割合が 24.2%、従業者数では、医療及び福祉の占める割合が 20.3%と最も高い。
- ・市内には、農用地や未利用地が多いほか、日帰り観光客や宿泊客は増加傾向にある。宿泊業、飲食サービス業の事業所数は全体の 10.9%(第3位)を占める。

(1)あきる野市の地域経済循環図

1)地域内経済循環図から見た現状

【現状】

- ・あきる野市の地域経済循環率は 75.4%で、近隣自治体と比較すると低い状況。
- ・生産面は、第2次、第3次産業がメインで、労働生産性が低い。(都内で 50 位、全国で 842 位)
- ・分配面は、地域外から 949 億円(約 35~40%)が流入しており、都心近郊の都市特性(ベッドタウン)を有していると考えられる一方、地域内の雇用者所得は低い。
- ・支出のうち、民間消費の 828 億円(約 30%)が地域外へ流出しており、地域外へ所得が流出している構造。

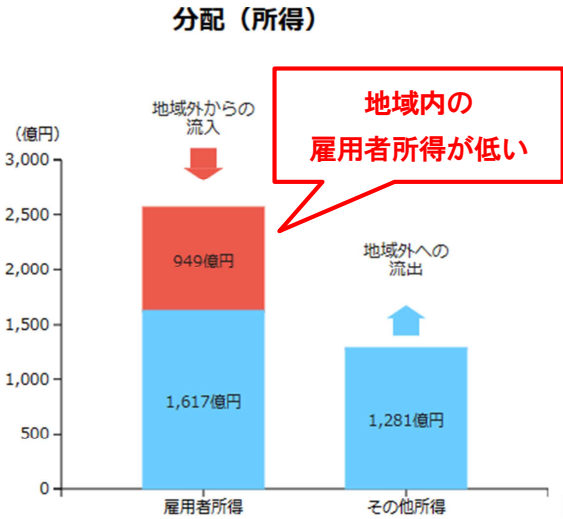


分配(所得)

地域経済循環率
75.4%

地域経済循環図 2018年

指定地域：東京都あきる野市



	雇用者所得	その他所得
所得（一人当たり）	320万円	160万円
所得（一人当たり）順位	72位	1,565位

【グラフと表の見方】

「分配（所得）」では、地域産業が稼いだ付加価値額がどのように所得として分配されたかを把握することができます。「分配（所得）」は、雇用者に支払われた「雇用者所得」と、財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等、雇用者所得以外の「その他所得」で構成されます。各棒グラフは、地域内の住民・企業等に分配された所得の総額を示しています。

雇用者所得(近隣自治体)

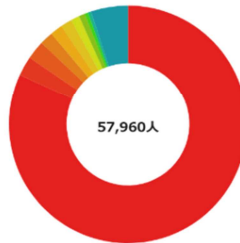
項目		あきる野市	青梅市	羽村市	福生市	昭島市	日の出町
雇用者所得	万円 / 人	320	345	524	332	431	313
	順位	72	44	6	54	17	88

雇用者所得は、
近隣自治体と比較して低い

昼間人口・夜間人口の地域別構成割合

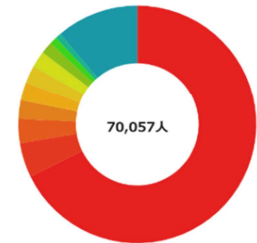
2020年 東京都あきる野市
昼間人口：57,960人
夜間人口：70,057人
(昼夜間人口比率：82.73%)

昼間人口
(指定地域内に日中滞在する人の居住地)



- 1位 東京都あきる野市 47,439人 (81.85%)
- 2位 東京都青梅市 1,537人 (2.65%)
- 3位 東京都八王子市 1,476人 (2.55%)
- 4位 東京都日の出町 1,052人 (1.82%)
- 5位 東京都福生市 978人 (1.69%)
- 6位 東京都昭島市 883人 (1.52%)
- 7位 東京都羽村市 687人 (1.19%)
- 8位 東京都立川市 480人 (0.83%)
- 9位 東京都日野市 269人 (0.46%)
- 10位 東京都瑞穂町 239人 (0.41%)
- その他 2,920人 (5.03%)

夜間人口
(指定地域内に居住する人の日中の滞在地)



- 1位 東京都あきる野市 47,439人 (67.71%)
- 2位 東京都八王子市 3,273人 (4.67%)
- 3位 東京都日の出町 2,296人 (3.28%)
- 4位 東京都昭島市 1,787人 (2.55%)
- 5位 東京都立川市 1,764人 (2.52%)
- 6位 東京都青梅市 1,673人 (2.39%)
- 7位 東京都福生市 1,594人 (2.28%)
- 8位 東京都羽村市 1,142人 (1.63%)
- 9位 東京都瑞穂町 704人 (1.00%)
- 10位 東京都新宿区 546人 (0.78%)
- その他 7,839人 (11.19%)

2)地域内経済循環図から見た課題と考察

【課題】

生産、分配、支出のバランスにおいて、「民間消費の地域外への流出」が課題。

【考察(改善策)】

①生産「付加価値額の増加」

- ・企業誘致の推進(雇用の確保)
- ・農業、観光産業における生産性の向上 等

②分配「雇用者所得の増加」

- ・労働生産性の高い産業の創出・誘致 等

③支出「民間消費額の流出抑制」

- ・地域内の魅力づくり
- ・地域での消費、購買を高める魅力ある商業施設等の立地促進(消費できる場づくり) 等

参考資料③ あきる野市の生活環境に関する分析

市民意向調査

「市民アンケート調査」より、生活環境に対する市民意見について整理した。

【定住意向】

「市内に住み続けたい」と考えている市民が多く、また「自然環境に恵まれているため」を定住理由とする市民が多くなっている。

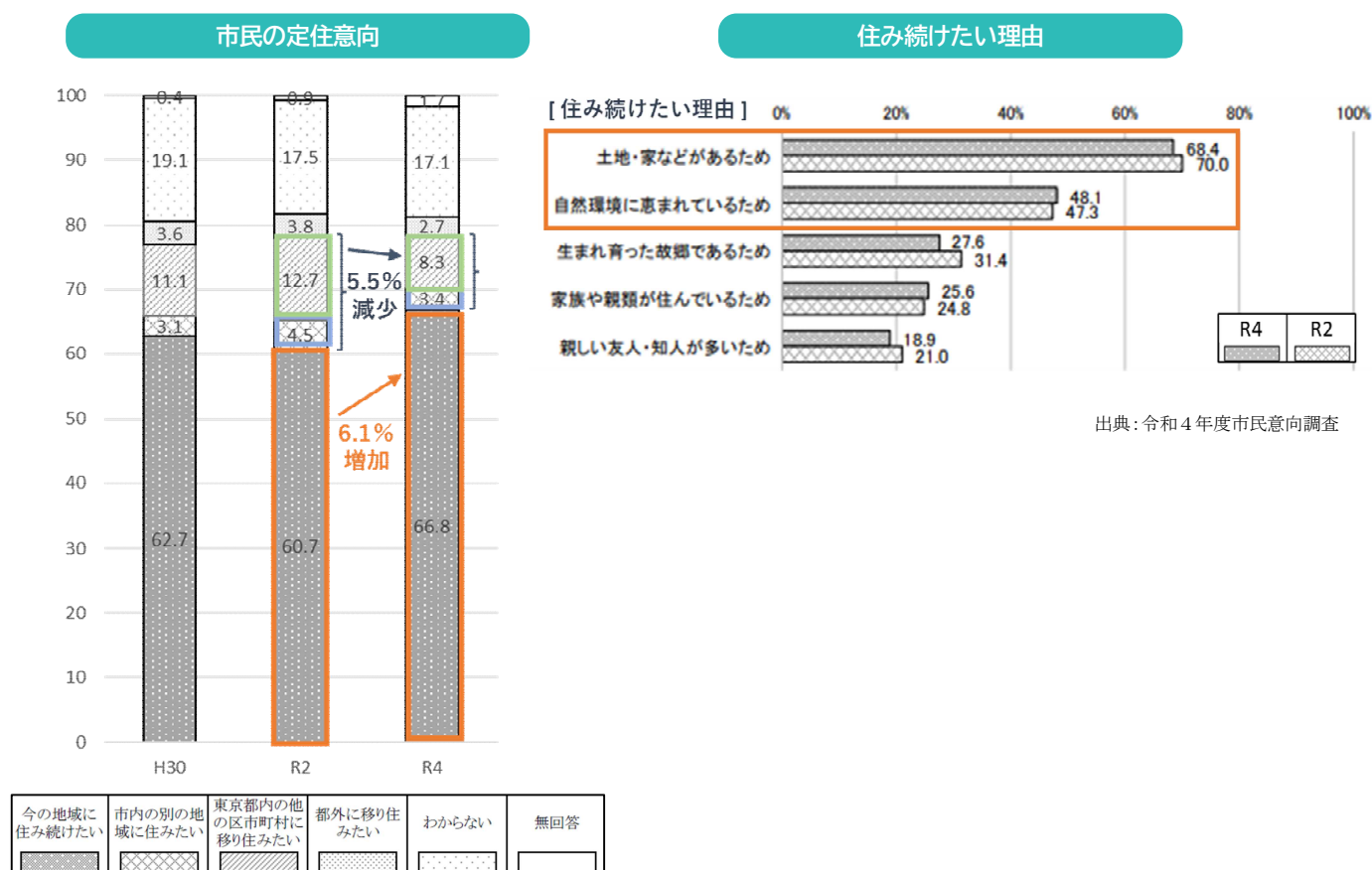
《 定住意向 》

・「今の地域に住み続けたい」が 66.8%と最も多く、令和2年度より増加している

《 住み続けたい理由 》

・「土地・家などがあるため」が 68.1%と最も多く、次いで「自然環境に恵まれているため」が 48.1%と多くなっている

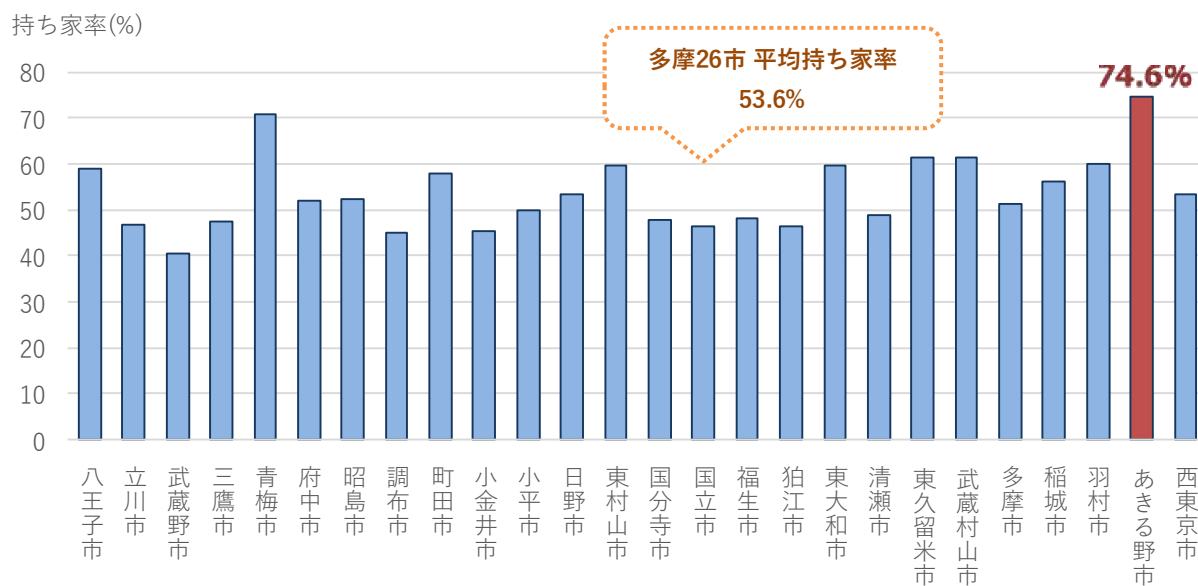
・「自然環境に恵まれているため」を定住理由とする市民の割合は、令和2年度より増加している



【持ち家率】

本市の持ち家率は多摩 26 市の平均を大きく上回る 74.6%となっており、最も高くなっている。

多摩 26 市の持ち家率





令和7年7月

秋川高校跡地及び周辺地区まちづくり方針（案）

発 行 あきる野市

編 集 都市整備部 都市政策課

〒197-0814

東京都あきる野市二宮350番地

電話 042-558-1111